

オーディオ実験室収載

FAL C90EXW 駆動アンプの 選択(1)

—45pp アンプの適用—

1. はじめに

FAL C90EXW の導入の経過は、[FALスピーカー試聴記](#)のシリーズで報告しています。駆動アンプの選択については当初、Pilotone の 5881pp アンプで少しの期間鳴らした後、しなの音蔵オリジナル 300B シングルアンプで駆動することとし、その後、ステレオ誌付属の[デジタルアンプによるバイアンプ駆動](#)を試みたり、[スピーカリベラメンテの適用](#)を行ったり、[Sopranino の付加](#)を行ったりしていますが、300B シングルアンプによるバイワイアリング駆動を替えたことはありません。今回、駆動アンプを替えてみてどのように変わるか一連の実験を試みることにしました。

2. 45pp アンプによる駆動の試聴方法

今回使用するのは芦屋ベルステレオオリジナルの RCA のナス型 45pp アンプです。しなの音蔵オリジナル 300B シングルアンプに繋いでいるムジカラライザーのケーブルを 45pp アンプの端子に繋ぎかえて、45pp アンプの端子には foQ シートを巻きます。ムジカラライザー以降は 2 本のスピーカリベラメンテによるバイワイアリング駆動となっています。なお、電源の差し込みプラグには foQ シートを貼っており、電源ケーブルには自作フィルタライザーに巻いています。



比較対象は 300B シングルアンプですが、アンプのスピーカー端子はネジ止めですので、他のアンプとの比較のために頻繁に繋ぎかえる都合上、ネジの上に foQ シートを貼った上で、スピーカー端子からは Western のケーブルで引き出し、ムジカラライザーのケーブルとバナナプラグのネジ穴に差し込んで接続します。

なお、電源は以下の報告のアンプすべて、パワーリベラメンテ経由で給電した KOJO のタップから取っています。



3. 45pp アンプによる駆動の試聴結果

使用している 45 はナス型の古い球ですが、プッシュプルにしていますので、駆動力もあって決して古臭い音はせず、3 極管特有の直線性の良い素直な音がします。300B シングルアンプに比べて、音質が劣化したという感じはしませんが、少し音場の奥行き感が後退して平面的になり、弦の艶も若干後退した感じがします。

4. まとめ

45pp アンプはナス型の古い球ですが、300B シングルアンプに比べて、少し音場の奥行き感が後退して平面的になり、弦の艶も若干後退した感じがしますが、素直な音がして、十分 FAL C90EXW での鑑賞に耐えられると言えます。

以上